

N E D O次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究環境影響評価方法書に対する市長意見

1 全般的事項

本方法書では、海底ケーブル敷設工法や風力発電機の組立て場所等の工事計画が明確に示されていないが、今後、環境影響評価項目及び手法の選定に関わる新たな要因が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うこと。

2 底質の有害物質について

係留チェーンの設置やケーブル敷設工事の際に底質の巻き上げが予想されるため、周辺海域における底質中の有害物質含有量に関して、より詳細に文献調査を行い、汚染のおそれがある場合には、環境影響評価項目に選定すること。

3 海生動物に係る環境影響評価について

海生動物の調査については、頭足類についても対象とし、水中騒音による海生動物の予測評価にあたっては、周波数特性を考慮すること。

4 鳥類に係る環境影響評価について

- (1) 本方法書では、風力発電機の設置場所について、オオミズナギドリ
の飛翔ルートに配慮した検討経緯が記載されているが、白島に生息するカ
ラスバト等重要種への影響についても配慮した内容を環境影響評価準備書
に追記すること。また、環境影響評価にあたっては、白島を調査地点に追
加し、確認された重要種等を対象として予測及び評価を行うこと。
- (2) 渡り鳥の定点調査については、鳥類が飛翔する時間帯が、鳥類の種
や季節、天候等により異なることから、適切な調査期間を設定すること。
- (3) 鳥類の調査については、バードストライクに関する予測・評価を定
量的に行うために適切な手法を採用すること。

5 生態系に係る環境影響評価について

浮体等による魚類の螺集と鳥類の採餌行動との関係については、他地域に
おいて先行して行われている浮体式洋上風力発電の実証事業における知見等
を活用して、予測及び評価を行うこと。